

2021年度エイズ電話相談事業報告書

- 概要 1995年1月から開始し、毎週火曜日夜7～10時に、相談員が交代でローテーションに入り、電話相談を行っている。
2021年度は、相談員2人(沼田・秋山) モニター1人(長谷川)体制で相談を受け、12月からはモニター1人が相談員デビューをし3人体制で相談を受けた。
- 目的/経過 HIV感染に対する不安を持つ人、感染後のサポートを求める人に対する相談。
- 結果/効果 2021年4月～2022年3月の電話相談集計結果

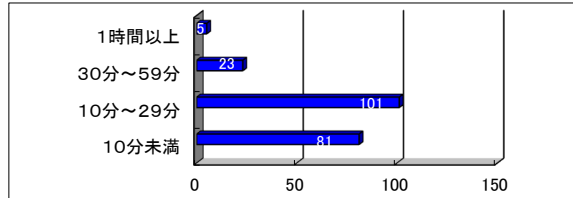
合計件数 210件

1、時刻

時刻	件数	割合
7:00～8:00	95	45.2%
8:00～9:00	64	30.5%
9:00～10:00	51	24.3%
合計	210	100.0%

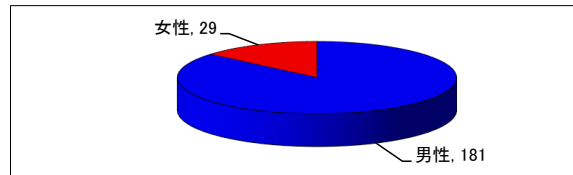
2、時間

時間	件数	割合
10分未満	81	38.6%
10分～29分	101	48.1%
30分～59分	23	11.0%
1時間以上	5	2.4%
合計	210	100.0%



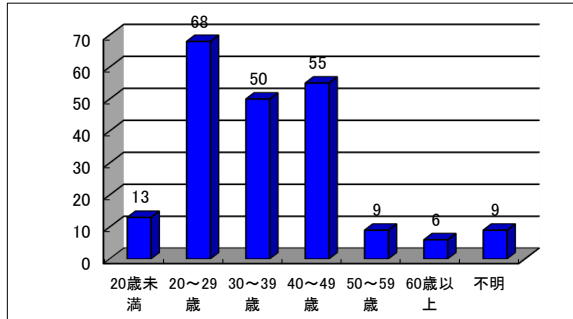
3、性別

性別	件数	割合
男性	181	86.2%
女性	29	13.8%
他	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	210	100.0%



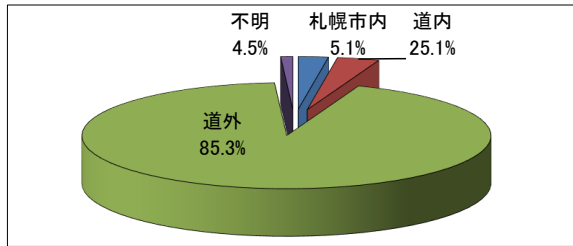
4、年齢

年代	件数	割合
20歳未満	13	6.2%
20～29歳	68	32.4%
30～39歳	50	23.8%
40～49歳	55	26.2%
50～59歳	9	4.3%
60歳以上	6	2.9%
不明	9	4.3%
合計	210	100.0%



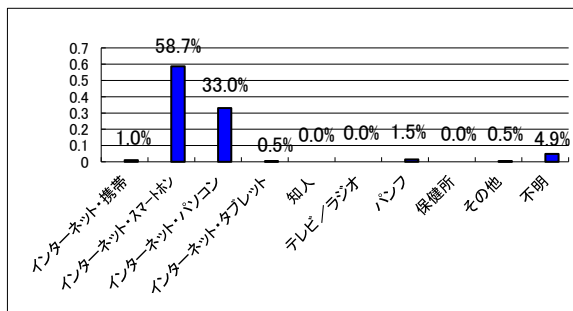
5、地域

地域	件数	割合
札幌市内	5	2.4%
道内	7	3.3%
道外	196	93.3%
不明	2	1.0%
合計	210	100.0%



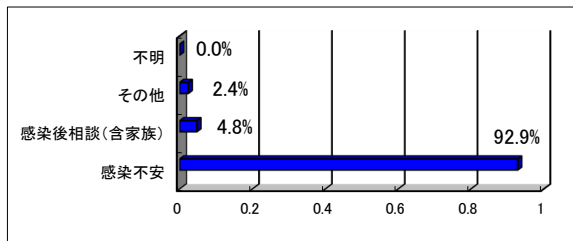
6、情報源

情報源	件数	割合
インターネット・携帯	2	1.0%
インターネット・スマートフォン	121	58.7%
インターネット・パソコン	68	33.0%
インターネット・タブレット	1	0.5%
知人	0	0.0%
テレビ/ラジオ	0	0.0%
パンフ	3	1.5%
保健所	0	0.0%
その他	1	0.5%
不明	10	4.9%
合計	206	100.0%



[相談内容]

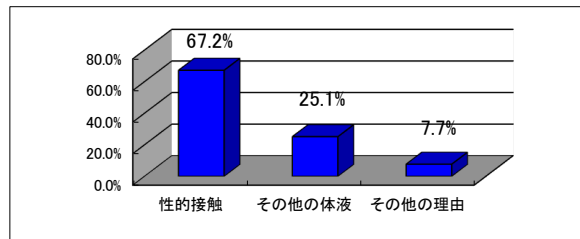
相談内容	件数	割合
感染不安	195	92.9%
感染後相談(含家族)	10	4.8%
その他	5	2.4%
不明	0	0.0%
合計	210	100.0%



1、感染不安の不安要因

※相談内容「感染不安」の内の不安要因

	件数	割合
性的接触	131	67.2%
その他の体液	49	25.1%
その他の理由	15	7.7%
合計	195	100.0%



2、検査についての相談

	件数
あり	84
なし	111
合計	195

3、他の性感染症についての相談

※不安要因が「性的接触」の内の相談

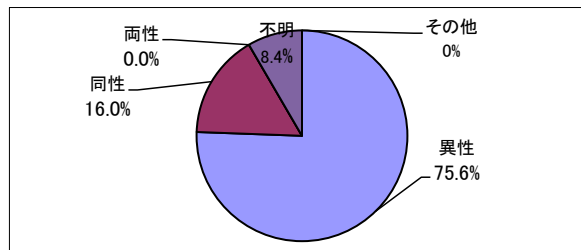
	件数
あり	20
なし	175
合計	195

4、エイズ不安症候群

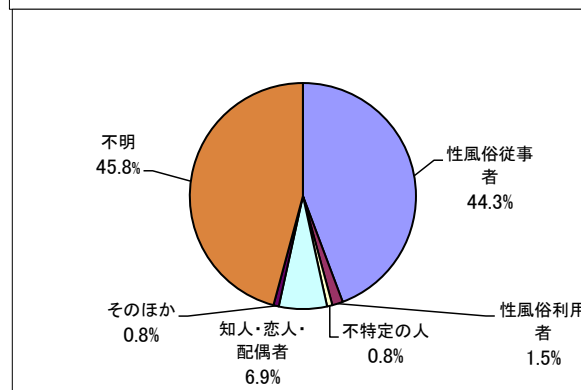
	件数
あり	20
なし	175
合計	195

5、性行為の相手

	件数	割合
異性	99	75.6%
同性	21	16.0%
両性	0	0.0%
不明	11	8.4%
その他	0	0.0%
合計	131	100.0%



	件数	割合
性風俗従事者	58	44.3%
性風俗利用者	2	1.5%
不特定の人	1	0.8%
知人・恋人・配偶者	9	6.9%
そのほか	1	0.8%
不明	60	45.8%
合計	131	100.0%



6、行為内容※コンドームに関して

	不使用	最初から使用	途中から使用	さけた・はずれた	つけたりつけなかったり	不明
膣性交	17	24	0	2	0	2
肛門性交	8	2	0	3	0	2
フェラチオ	42	12	0	1	0	4
クニニリングス	18	1				
素股	17					
キス	16					
その他	24					

※月別件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期計	
12	19	18	19	10	19	97	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期計	年間計
12	20	23	17	17	24	113	210

■分析

・件数は昨年度の170件(一日平均3.8件)から210件(一日平均4.2件)と年間受付件数は微増となった。
(昨年度は年間45回、今年度は年間50回の相談受付日数)

2020年度は2019年度と比較して性風俗従事者が23.9%と約19%低下、不特定の方は6.7%、知人・恋人・配偶者が6.8%上昇したが、2021年度は性風俗従事者が44.3%となった。
新型コロナウイルスのワクチンの広がりにより、出張・旅行などの外出が増えたことも影響していると思われるが、さまざまな要因が考えられ特定には至らない。

・国内でのPrEPおよびPEP(nPEP: 性行為による暴露後予防)を診断・処方するクリニックが広がってきた。

2021年度の電話相談ではリスクがほとんどない行為に対するPEPへの相談があった。
PEP処方には患者にとって医療費の面で負担が大きだけでなく、3か月で信頼できる結果をお伝え出来ないなど不安を助長することにもなりかねない。処方されているクリニックでのしっかりとしたリスクアセスメントを期待したい。

・情報源としては、インターネット(携帯・スマホ・PC・タブレット)からが84%を占めており、当会ではインターネットでのアクセス向上を目指しているが電話相談件数の回復には至っていない。次年度以降はイベントでの広報資料配布などもツールとして取り入れさらなるアクセス向上に努めたい

・長期的な事業継続のため、2021年度は固定電話契約の見直しを行い、契約通信会社の変更を行った。

・新型コロナウイルス陽性など万一の事態に備えるとともに、将来の相談員確保を目的に新たな相談員育成を行った。

2020年度からはモニターとして電話相談に入っていたが2021年12月から相談員としてデビューをした。
引き続き受話体制の整備及び受話品質向上に努めていきたい。

・2021年度は、はばたき福祉事業団主催「北海道HIV検査相談担当者研修(オンデマンド研修)」において、当会の電話相談についてまとめた動画作成の依頼を受けた。

これに向け、可能な範囲で歴代電話相談員が情報交換できる場を持つことができた。電話相談開設当初の話を聞く機会はありませんでしたが、現相談員にとっても、良い学びの場となった。作成した動画は、今後の電話相談育成研修などでも使用していきたいと思っている。